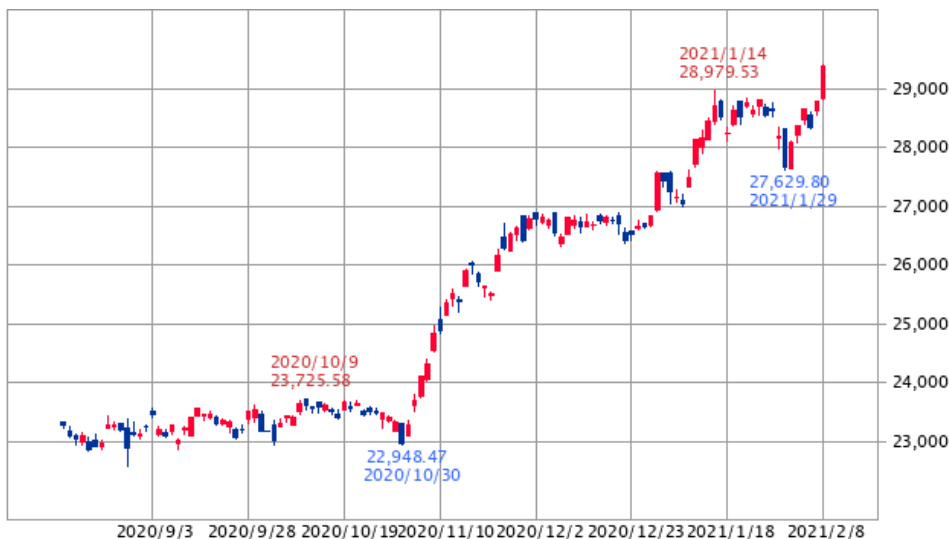


① 日経平均

- ⇒ 「海外投資家はロックダウンが続く欧州を避けて日本に資金を振り向けている」(SMBC 日興証券のトレポー・ヒルエクイティ本部長)
- ⇒ 各国の金融緩和であふれたマネーが株高を支える構図は変わっていない
- ⇒ 金利低下による運用難で、**投資家は割高でも株式に資金を振り向けざるを得ない**
- ⇒ 「**株価上昇は最終局面を迎えたような過熱感がある**」とアセットマネジメント One の清水毅調査グループ長
- ⇒ あるヘッジファンドは神戸製鋼所のショート(空売り)ポジションを手じまった
- ⇒ 8日は同銘柄が17%高。ショートの手じまい買いを巻き込んだ急激な値動きだ
- ⇒ 同時に「ロングオンリー(買い持ち専門)の長期投資家も持ち高が少なかった景気に敏感な割安株を増やしている」
- ⇒ QUICK・ファクトセットによると、**日経平均の12カ月先の予想PER(株価収益率)は1月時点で21.8倍**と、コロナ前の20年2月の16倍から大きく切り上がり、過去10年間で最高の水準となっている
- ⇒ 投資家が警戒するのは、経済再開と併走する米金利の上昇だ
- ⇒ そして金利に大きな影響を与える物価指数に注目が集まっている
- ⇒ みずほ証券の小林俊介チーフエコノミストは「このまま原油価格が高止まりすれば、4月の米消費者物価指数(CPI)は**3%を超えても不思議ではない**」
- ⇒ 債券市場でもリスクの高い資産への資金流入が広がっている
- ⇒ 米インターコンチネンタル取引所(ICE)によると、倒産確率が高い世界の低格付け債(ハイイールド債)の利回りは4.67%と過去最低水準まで低下(価格は上昇)している
- ⇒ 日経平均が24000円前後の窓埋めに向け調整すると予測し、1357ダブルインバースを
 - ① 金融資産の中で合計何%
 - ② あと何回に分けて
 - ③ どのタイミングで
 購入しようかを日々考えながら実践しています

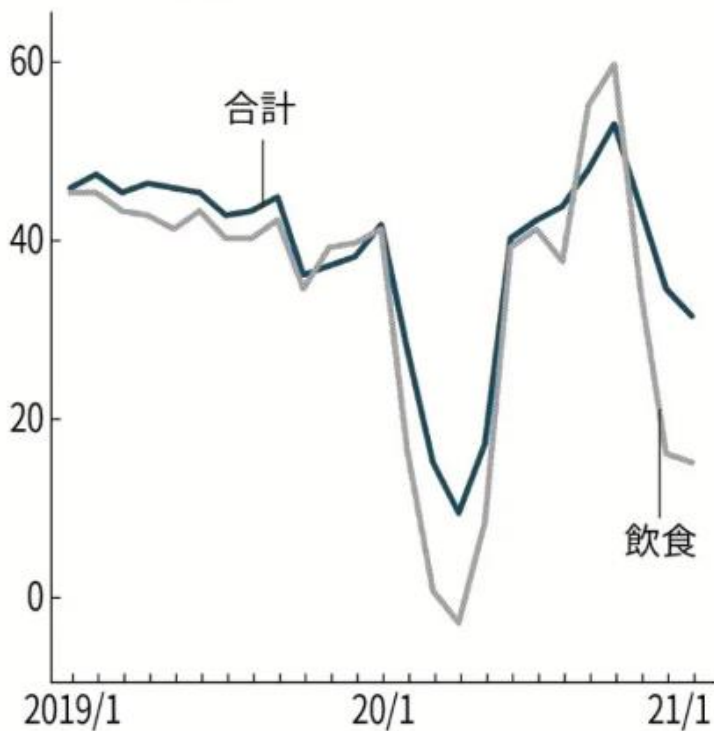
【日経平均:6ヶ月】



② 街角景気

- ⇒ 内閣府が 8 日発表した 1 月の景気ウォッチャー調査によると、景気の現状判断指数(DI、季節調整値)は前月比 3.1 ポイント低い **31.2** だった
- ⇒ 飲食関連は **15.1** と家計のなかで最も低かった
- ⇒ 20 年 12 月に 18.5 ポイント下がり、1 月は 1.0 ポイントと小幅の低下にとどまった
- ⇒ 「新しい服を着て出かける場所がなく、服は必要ないと判断されている」
- ⇒ 「1 月の売り上げは前年比 16%にとどまっており、社員を守れなくなっている」
- ⇒ 「20 年 10 月以降、自動車関連を中心に出荷量が前年並みに戻っている」(近畿の化学工業)
- ⇒ 「受注は明らかに回復傾向にある」(中国の鉄鋼業)

飲食関連が大幅に落ち込み



(注) 景気の現状判断DI。季節調整値

③ ビットコイン

- ⇒ 米電気自動車のテスラがビットコインを 15 億ドル(約 1600 億円)分購入したことが 8 日分かった
- ⇒ 資産の多様化が目的だという
- ⇒ テスラ製品の購入でビットコインの支払いを受け付けることも発表した
- ⇒ ビットコインの価格は一時 4 万 3000 ドルへと急上昇し、最高値を更新した

【ビットコイン:日足】



④ 為替

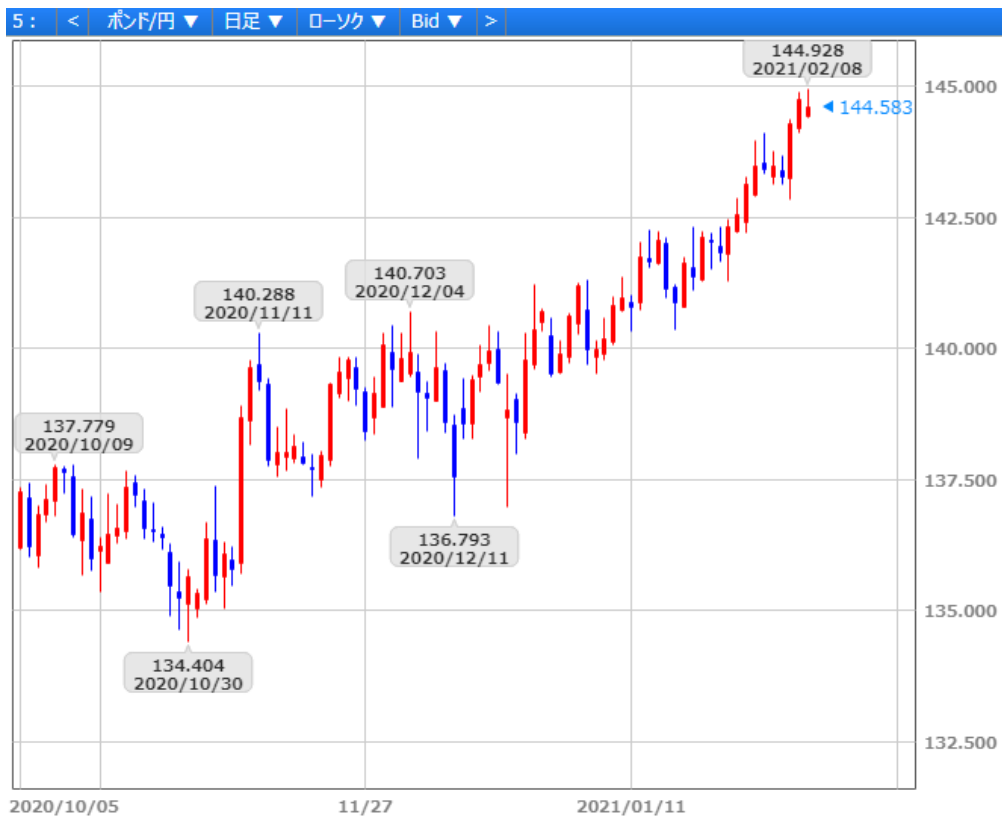
⇒ ポンド・豪ドルは続伸し戻り高値を更新

⇒ 米ドルは反落

⇒ 今年は、ポンドが 160 円に、豪ドルは 90 円に向かうと思います

⇒ 米ドルは 3・4 月の米CPI大幅上昇を睨み、ここから 4 月に向けて大きく円高に振れると予測します

【ポンド／円:日足】



【米ドル/円:日足】



【豪ドル/円:日足】

